

こつざい 交差点

昭和石材工業所 代表取締役社長

高瀬 順司



現在、砕石業界は、人材不足や高齢化、燃料や物流コストの高騰など多くの課題に直面しています。弊社も同様の課題を抱えており、これらを克服するためには、デジタル化による効率化と安全性の向上が不可欠だと考えています。本コラムで

は、弊社が進めるDX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組みについて紹介します。「現場業務の効率化・安全性向上への取り組み」
①生産管理 カメラソリューションを活用し、操作盤の異常値やプラントコンベア上の荷の大きさをリアルタイムで認識。事前に検知・対応することで稼働率を向上させています。また、改修を繰り返し大型化していた機械設備を、モバイル

DX化による生産性・安全性向上

プラントに変えることでスリム化を図り、コストを約3分の1削減しました。②在庫管理 ドローンを使った在庫の測量で、作業の手間を大幅に削減しています。③配車管理 GPSを活用し、最適な配車選定を目指しています。「オフィス業務の効率化」約20年前に導入した基幹システムの刷新に取り組んでいます。この改革で、単純作業から解放され、より「考える仕事」に注力できる環境を目指しています。また、単純に手作業をデジタルに置き換えるだけではなく「この業務は必要か」「本当に必要な業務は何か」

という視点で見直し、抜本的な改革を進めています。デジタル化はあくまで手段であり、その先にある働き方の進化を重視しています。その中で私が重要視していることは、人材育成です。DXの取り組みを通じて、自立的に課題解決を考えられる人材を育成することも目標の一つです。これにより、変化に対応し、持続的に成長する企業文化を構築したいと考えています。DXの第一歩は、変化を恐れず一步を踏み出すことです。業界全体でこの変革を推進し、次世代に誇れる砕石業界をとものに築いていきましょう。